

かながわの風

26
January
2020

<http://www.kacsw.or.jp>



特集 西湘支部県民公開講座
「気にかける」が地域を動かす
—ソーシャルワーカーという名の希望—
…………… p.4

- 年頭所感「年頭に寄せて」…………… p.2
- 支部長に聞く! 今年の支部の抱負…………… p.3
- 相模原支部たまひよオアシス 報告…………… p.6
- 令和元年度 理事会 報告…………… p.7
- 公開講座・研修情報…………… p.8
- 事務局からのお知らせ…………… p.8
- 広報委員会よりお知らせ…………… p.8





年頭所感

年頭に寄せて

公益社団法人神奈川県社会福祉士会
会長 山下 康

新しい年を迎え、皆様方に於かれましては心新たに毎日をお過ごしかと思います。昨年は残念ながら心が突き刺される事件が頻発しました。千葉の小学4年生女児虐待死事件や多発した子どもへの親からの傷害事件など、多くの子どもの命が奪われ心も身体も傷つけられました。警察の発表によると令和元年上半期、全国で検挙した児童虐待件数は869件と一昨年に比べ200件以上増えているとのこと。こういった虐待事件はなくしていかなければなりません。被害者である子どもはもちろん、加害者である親への支援も視野に入れていく必要もあります。そして東日本を中心とした台風や大雨も猛威を振るい、河川の氾濫や土砂崩れなど豪雨災害は国が対策の見直しを迫られるほどの記録的なものでした。福島県からはまだ500人以上の避難者生活を余儀なくされている方がおり、厳しい現実があります。日本という国に生きている以上、私たちは地震や台風、豪雨・豪雪・猛暑などの自然と正面から向き合わなければなりません。

また今年1月からは、私たちが忘れてはいけない「相模原障害者施設殺傷事件」の裁判員裁判が始まります。事件当時の責任能力の程度や範囲が争点になるようですが、3月16日には判決が言い渡される予定になっています。現在神奈川県からの指定管理者である「かながわ共同会」を中心に自己決定支援などの取り組みを積極的に行っており、神奈川県も「ともに生きる社会かながわ憲章」を策定し議会の承認も得て広く県民に呼び掛けています。

このようにあまりにも悲惨な事件や災害が多いと、その過去を忘れないと生きていくことが辛くなりますし、同時に忘れられないことや忘れてはいけないこともたくさんあるのではないのでしょうか。作家で福聚寺住職の玄侑宗久さんは～「忘れる」けど「忘れない」この相矛盾する心情の積み重ねが複雑で奥深い日本の文化を形作ってきた・二つの概念を両立させる鍵が「思い出す」という心の動き～と朝日新聞の紙面で語っています。また、心の奥底から湧き上がってくる声に耳を傾けること、そして聞くことの大切さも強調されています。

昨年12月、京都で開催された国連犯罪防止刑事司法会議（京都コンGRESS）公開シンポジウムに参加する機会がありました。（「コンGRESS」とは5年に1度開催される犯罪

防止と刑事司法に関する国連最大規模の会議で、2020年4月に50年ぶりに日本での開催となっています）今回のシンポジウムの大きなテーマは「再犯防止と更生支援に向けた取り組みの現状と今後の展望」であり、現在各自治体で取り組みを進めている再犯防止推進計画策定との関連も含め「再犯防止」は京都コンGRESSの重要な課題の一つとなっています。そのシンポジウムの帰り道、世界遺産仁和寺まで足を延ばし日本初公開である「幻の観音障壁画」を内拝してきました。観音障壁画は本尊を囲むように描かれており373年の時を超え鮮やかに残されています。そして堂内の幻の障壁画と威厳と躍動感に満ちた仏像全・33体を一気に身近に感じ、その優しさと迫りに圧倒されました。住職からは「観音とは人々の声を聴くこと」と教えられました。その話を聞き、一人のソーシャルワーカーとして現在まで自分がかかわってきた福祉制度利用者や支援をしてきた人たちの声をきちんと聴き、権利擁護の視点に立って受け止めることができていたのか、いやいや、まだできていないのではないかと、観音様を前にして永い時が過ぎていきました。

今の日本、超高齢化が進み、総務省の統計でも明らかのように少子化・多死化などにより人口の減少が始まっています。そして同時に生活領域での支えあいも希薄になってきています。地域社会から孤立し社会資源や制度をうまく使えないまま暮らしている人も多くいます。そして仕事を失い社会から疎外され、自殺や暴力、自動車での危険運転、虐待などに追い込まれる悲劇が起きています。だからこそ「地域共生社会」と国が言う中、私たちソーシャルワーカーは社会構造や暮らしの変化に応じて、支えあうことができる地域社会を目指し、孤立や孤独な状態に置かれることのないように地域社会を耕していかなければならないと思います。そのためには支援者の考えを一方向的に押し付けるのではなく、受容と共感をもってソーシャルワーカーの価値と倫理に立ち、一人一人の心の声を聴くということの大切さを思い続ける毎日です。

朝晩の冷え込みが厳しくなり、空気もどんどん乾燥してきています。身体を冷やさぬよう、皆様の健康を祈念します。そして今年が皆様にとって、とてとても良い年になりますように！

今年の支部の抱負

～今年の支部活動を漢字1文字で～



川崎支部

支部長 平山 みちる

輝

令和2年目、『2020 —オリンピック』が日本で開催されます。『パラスポーツ』も大きな注目を浴び、楽しみが沢山詰まった年になりそうです。

一方で、益々、人々を取り巻く問題は深刻化・多様化し、地域での支えあいが重要となっています。

今年も、会員相互の出遭いや繋がり合いを通して、輝いて地域で活躍できるよう温かい交流を深めていきましょう。

横浜支部

支部長 松下 圭一

能

支部が元気に活動するための原動力…それは会員一人ひとりの想いや好奇心、遊び心だと思います。横浜支部では、地域連絡会や幹事会、ハグミサロン、たまひよくらぶ、SNS等の場を通じて、皆さんの想いやアイデアを聴き、支部活動につなげていきたいと思っています。

2020年も「会員が参加しやすい支部活動」「地域の中の支部」を意識し、創意工夫を重ねながら、皆さんと一緒に「ハマの社会福祉会」を作っていきたいと思っています。今年もよろしくお祈りします。

県央支部

支部長 池田 雄一

縁

あけましておめでとうございます。今年は、「縁」の一文字を大切にしながら活動していきたいと思っています。支部活動は、支部会員の皆さんの勤務先が様々なことから、参加しても得るものが少ないと思われがちです。しかし、畑違いであっても意見

交換をし合うことで会員同士のつながりが深まっていきます。仕事上のプラスになることも少なくありません。これが仕事を越えた運命的な巡り合わせ「縁」なのではないでしょうか。今年も多くの皆さんに集まっていただき、「これをご縁によりしくお祈りします」とあいさつを交わしていきましょう! どうぞよろしくお願いいたします。

湘南東支部

支部長 岸谷 一則

橋

今年も昨年に引き続き防災ソーシャルワークを重点目標にして取り組んで行きたいと思っています。さて恒例の一字ですが、来日されたフランシスコ教皇が以前、トランプ氏に向けた言葉に国境には“壁”ではなく“橋”をと述べられました。橋の語源は“端”と同じで兩岸の端と端を繋ぐものです。私達ソーシャルワーカーも橋渡し役として力強い橋が築ければと思います。

西湘支部

支部長 重本 晴賀

跳

昨年度の西湘支部の勢いのまま、さらに楽しく、会員の皆様ももっと元気になれるような支部活動を目指します。「社会福祉士=身近革命の 実行者」でありたいという思いから、

今年度も分野・領域・職種を越えた連携について考え、単なるサービス提供者ではなく、ニーズに応じて専門職の壁を取り払って情報共有が出来るような一年になることを目標に掲げています。そして今年のテーマは「虐待」。様々な分野で起こる虐待の現状や課題を共有していきたいと思っています。

湘南西支部

支部長 和田 貴子

話

湘南西支部の方針としては、会員同士の顔の見える関係の構築。会員同士のコミュニケーションの場を作り、一人でも多くの会員との情報交換を目標にしています。

伊勢原市、秦野市、平塚市、大磯町、二宮町の3市2町の市町村ですが、それぞれの地域との情報交換をしながら、湘南東との関わりを深め、災害時等に備えて、私達ができる事を考えていきたいと思っています。来年は災害に関することの勉強会も行いたいと思っています。

相模原支部

支部長 小野澤 和美

重

社会福祉士の、役割は人と人、人と地域をつなげることにあります。

つながりをつくるには、私たち一人一人が地域で活動している人々に関心を持ち、活動している人々と重なり合うことが大切だと考えています。

重たくならず、しなやかなフットワークで地域と重層的なつながりを創れるような活動をしていく年に、新しい一年をしていくことを目指して支部活動を充実させていきたいと思っています。

横須賀・三浦支部

支部長 吉田 勝利

次

第1のもののあとに続く…私たちにとって第1のものは、日々、支援者として関わる人たちであり、その人たちを支え続けること(主体性の尊重、意思決定支援等)があと

に続く事であると捉え、第1を追いこすのではなく、次手として関わる人たちを支え続けていく事ができるように2020年度、横須賀・三浦支部は、研修・活動をおこなっていきたくて考えています。

「気にかける」が地域を動かす

11月16日、西湘支部主催の県民公開講座がおだわら市民交流センター UMECOで県民公開講座が開かれました。講師に慶應義塾大学経済学部の井手英策教授を迎え、「『気にかける』が地域を動かすーソーシャルワーカーという名の希望ー」をテーマに、前半は井手先生の講演、後半は約120名の参加者がこれからのソーシャルワーカーの役割を議論しました。

井手先生の講演では、現在の暮らしの不安が増す日本の社会保障の状況を解説し、消費税の増税を含めた財源を確保し、的確な分配ができれば医療、介護、子育てといったサービスを無償化することは実現できるとお話がありました。その上で「暮らしの不安は社会保障制度の充実だけで解消されるのか」と先生の家族に起きた悲惨な体験も踏まえて私たちに問いかけました。そして、今こそ「お互いが気にかける地域づくり」が必要であり、その担い手がソーシャルワーカーであるとも仰っていました。井手先生は私たちソーシャルワーカーを「身近を革命する人たち」と表現。地域の社会資源を生かし、不安を抱えた人々の環境を変える為、サービス提供に留まらずに、地域資源の開発や変革に取り組む実行者であるべきだと私たちに訴えかけました。



後半のグループワークでは、井手先生から受け取った熱いパスを踏まえて、「いま私達にできることは何か」というテーマで1グループ5~7名に分かれて話し合いました。参加者からは「井手先生の話の前に進めていかなくてはいけない」「自治会組織を強くしていくには何が出来るか」「人材育成、確保に注力するべき」など様々な意見が出ました。

社会福祉士と一般の方がおよそ半分ずつ参加し、会場は活気に満ち溢れ、本当に多くの参加者と活発な意見交換を行いました。懇親会でも講演やグループワークの話が発展し、ソーシャルワーカーとして今後の希望や展開を見い出せる機会になったと感じています。「ソーシャルワーカーにできることは何か」をこれからも考えていきたいと思います。小田原では加藤市長の就任とともに、ケアタウン構想に取り組んできました。10年がかりの取り組みの結果、各地区にさまざまな事業が展開され、自治会や地区社協をベースとした福祉の基盤が形作られて来ました。こうした土台のうえに、ソーシャルワーカーの配置を行えば、小田原の福祉モデルは先端的なものになりうる可能性を秘めていると思います。



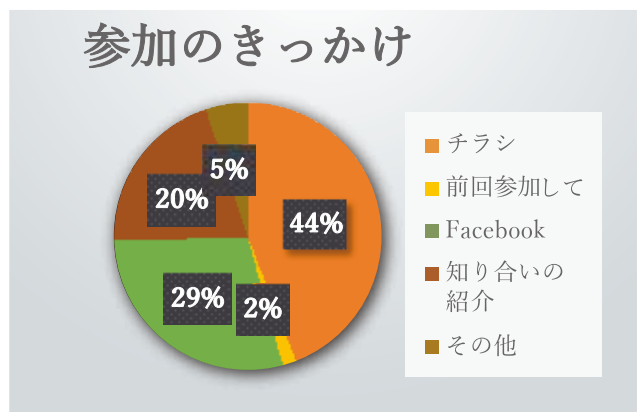
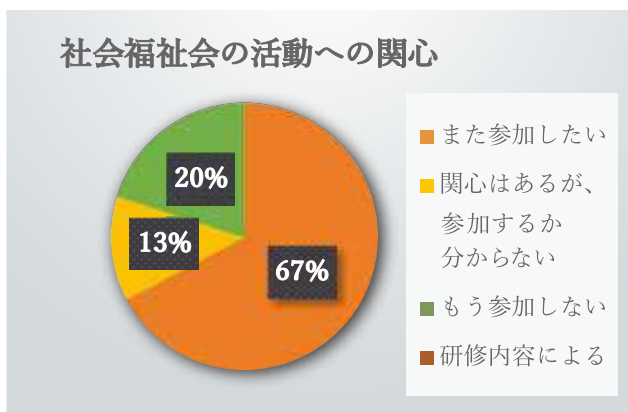
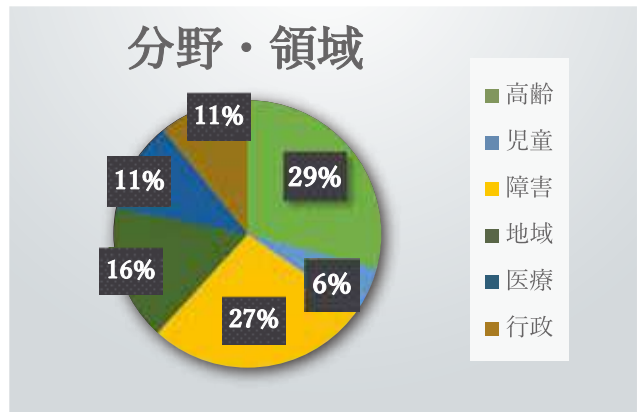
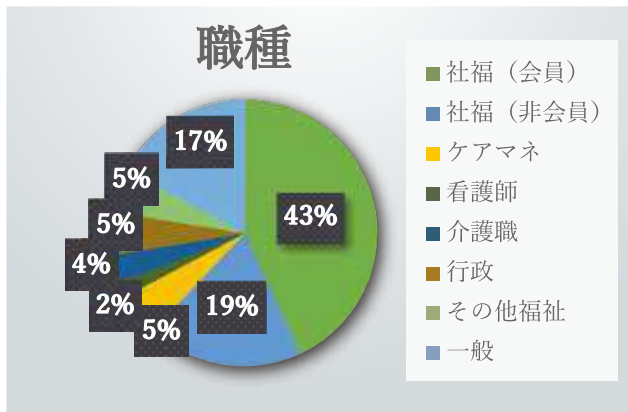
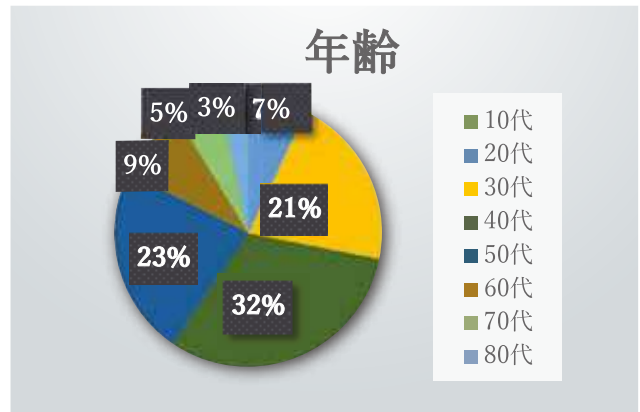
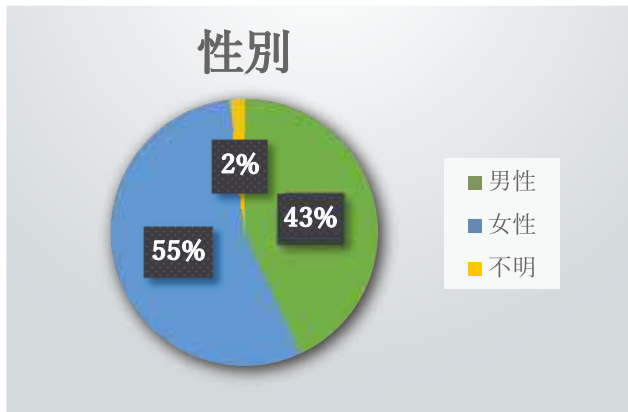
— ソーシャルワーカーという名の希望 —

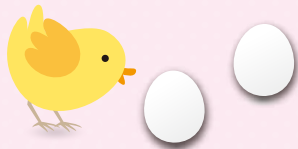
加藤市政のもとで育まれた地域の問題を解決する力にソーシャルワーカーが加わり、各地区でソーシャルワーカーを中心に専門職や自治会のメンバーが情報交換する場を作り、同時に、市役所の内部でも組織横断的な検討の場を作って、そこで各地区の課題、ニーズを吸い上げていけば、ケアタウンの理念が現実のものになるのではないかと期待しています。

現在、小田原市役所へ配置するソーシャルワーカーについて小田原市長と意見交換をしています。これが新たな活動のスタートになる事を目指して、今年も邁進したいと思います。



アンケート集計結果





たまひよ紀行

報告



「たまひよクラブ」は、社会福祉士を目指す方、社会福祉士となって日が浅い方が集い、交流し、つながりをつくり、深める場です。今回は、相模原支部で開催された交流会について報告します。

相模原支部たまひよオアシス 報告

支部長 小野澤 和美

相模原支部では、今年度、たまひよオアシスを会員と地域で活動している方の交流の場として位置づけ、隔月で夜の部と昼の部を開催しています。

夜の部第1回を2019年10月25日に開催しました。会場は、相模原市で認知症施策について積極的に活動しているリンクマネジメントさんの会議室をお借りし、相模原市民見守りあいプロジェクトとさがみはら認知症サポーターネットワークについて世話人の松崎さんにお話ししていただきました。

相模原市民見守りあいプロジェクトはスマートフォンを活用して地域の高齢者の見守りをするシステムで、市民同士がつながり見守りあえる街を育てることを目指しています。

参加者は6名となってしまいましたが、スマートフォンを使った見守りあいの可能性の大きさを感じて、普及の必要性を痛感しました。

市外の会員の方も参加してくださり、熱い議論の場となりました。

続いて11月は、22日に昼の部を開催しました。会場は、県立相模原公園グリーンハウス内のオレンジカフェ。市内の社会福祉法人アトリエさんが障害を持った方の就労支援の一環で運営しています。オレンジカフェに数名の会員でお邪魔し、緑に包まれた空間で、こだわりの美味しいコーヒーをいただきながらゆったりとした時間を過ごすことが出来ました。

参加した会員は、障害を持った方の働く姿を見て、社会に出ていくことの大切さを痛感していました。



相模原市内には、まだまだ、私たちの知らない福祉の現場が多くあります。これからも、そういった方が他と連携して、地域の繋がりを深め、地域資源を理解するためにたまひよオアシスを続けていきたいと思えます。

※次回の予定は、神奈川県社会福祉士会のホームページをご覧ください。

ホームページ <http://www.kacsw.or.jp/>



<2019 (令和元) 年度 理事会 報告> (偶数月開催以外は臨時理事会となっています)

■第4回通常理事会 2019年10月19日(土) 13:15~14:55

相模原市産業会館4階 特別会議室(同日支部役員連絡会を開催のため相模原地区で行なった)

議長: 山下会長、理事出席11名 事務局1名 議事録署名人: 出席全理事 齊藤監事

審議事項 議案1: 入退会審査—19月入会5 退会2 転入1 転出1、9月末会員数3,128名、組織率18.09% (承認)

議案2: ぱあとなあ神奈川候補者推薦状況及び名簿登載—10月1日登録者数561名、新規登録0、抹消1、家裁名簿登録者数10月1日 487名。推薦依頼34件推薦済22件。継続調整中8件。法人後見10件(承認) **議案3:** 地区コーディネーターの交代一県央地区辞任者の後任に鈴木眞理子氏を推薦。(承認) **議案4:** 次年度事業計画・予算案作成・査定日程—12月2日、事業計画予算提出期限、12月22日査定、1月19日第2回査定、2月20日~2週間程度、事業計画予算案に関する会員への広報、3月15日理事会で事業計画予算審議(承認) **議案5:** 規則改正案—①細則14号 権利擁護センター「ぱあとなあ神奈川」における地区コーディネーターの役割に関する細則改正(案)(承認) ②規則55号 子ども・家庭支援事業組織及び運営規則(案)文言修正後、内容は案の通り(承認) ③多文化共生(滞日外国人)支援事業組織及び運営規則(案)文言修正後、案の通り(承認)

協議事項 ①12月理事会開催日程変更 ②台風19号被害状況対応—①②は了承 ③横浜市カジノ誘致に関する本会の考え方(次回理事会へ継続協議)

報告事項 ①正副会長動向(前回理事会以降10月18日迄) ②会計進捗状況(8月分・9月分) ③各推薦後援状況 ④各支部活動報告(9月) ⑤各事業部・委員会2ヶ月活動報告(8月・9月) ⑥各受託事業進捗状況報告(8月・9月) ⑦9月20日開催通常理事会議事録の確認(以上了承)

■臨時理事会 2019年11月13日(水) 19:00~21:00 ウィリング横浜11階 多目的室

議長: 山下会長、理事出席13名 事務局1名 議事録署名人: 出席全理事 齊藤監事 江原監事

審議事項 議案1: 入退会審査—10月入会6 退会3 転入3 転出1、10月末会員数3,133名、組織率18.10% (承認)

議案2: ぱあとなあ神奈川成年後見人候補者名簿登録状況及び後見人等候補者推薦、法人後見状況—11月1日登録者数561名、新規登録0、家裁名簿登録者数11月1日で487名、推薦依頼10月45件、推薦済20件。継続調整中は18件。10月不受理5件。法人後見10件。(承認) **議案3:** 2019年度多文化ソーシャルワーク委員会事業計画補正予算—多文化ソーシャルワーク委員会の今年度の活動として旅費予算承認。事業計画を次回以降提出依頼。(一部承認) **議案4:** 選挙管理委員会委員委嘱—選挙管理委員会委公募に3名応募あり氏名一覧を確認し、委嘱承認。(承認)

協議事項 ①横浜市のカジノ誘致に関する本会の考え方(前回理事会からの継続協議事項) 次回理事会への再継続協議

報告事項 ①神奈川県立入検査(10月29日実施) ②災害対策本部立ち上げ後の状況 ③業務執行理事報告: 正副会長業務(前回理事会以降11月12日迄) ④子ども家庭支援講座(11月2日実施)とその後のプロジェクトの動き ⑤会計進捗状況(10月分) ⑥各推薦後援状況 ⑦第5期役員改選 ⑧10月19日開催通常理事会議事録の確認 ⑨はばたき職員採用(報告と書類回覧)(以上了承)

■第5回通常理事会 2019年12月19日(木) 19:00~20:45 ウィリング横浜5階503

議長: 山下会長、理事出席12名 事務局1名 議事録署名人: 出席全理事 江原監事

審議事項 議案1: 入退会審査—11月入会4 退会2 転入1 転出1、11月末会員数3,135名、組織率18.10% (承認)

議案2: ぱあとなあ神奈川成年後見人候補者名簿登録状況及び後見人等候補者推薦、法人後見状況—12月1日登録者数561名、新規登録0、家裁名簿登録者数12月1日487名。後見人等候補者推薦依頼11月43件、推薦済24件、継続調整中16件、法人後見10件。(承認) **議案3:** 2020年度各受託事業の受託予定確認—現在行政機関から受託している事業の継続に関する本会の方針を確認(承認) **議案4:** 規則改正(案)—規則29号 相談事業部組織及び運営規則改正案—第2条(2) 児童・家庭支援事業の「児童」の記載はすべて「子ども」とすることで承認。規則42号 選挙管理規則改正案、規則49号 経理規則改正案、細則19号 会費納付及び滞納細則改正案、基準13号 役員旅費日当等の支払い基準(承認)

協議事項 ①横浜市のカジノ誘致に関する本会の考え方のまとめ(前々回理事会からの継続協議事項)—本会見解文書案を検討、内容の考え方について意見交換、文書再作成する。(了承)

報告事項 ①執行理事の業務報告 正副会長動向(前回理事会以降11月12日迄) ②会計進捗状況(11月分) ③各事業部委員会の2ヶ月報告(10月・11月分) ④各支部活動報告 ⑤各推薦後援状況 ⑥選挙管理委員会からの第5期役員改選に関する報告 ⑦代議員辞任と予備代議員繰り上げ ⑧11月13日開催通常理事会議事録の確認(以上了承)

公開講座 & 研修会

お申込み・
お問い合わせは

電話：045-317-2045

FAX：045-317-2046

e-mail：web@kacsw.or.jp

公益社団法人神奈川県社会福祉士会 事務局 までお願いします。

月	日	開始時間	終了時間	研修名	概要	場所	主催	対象	費用
2	8	13:30	16:30	たまひよユース in ヨコハマ	講演 山下 康氏 (神奈川県社会福祉士会会長) 交流会「つながろう! 未来を拓く ソーシャルワーカー」	ウィング横浜 9階 902号室	組織向上 委員会	20代・ 30代の 社会福祉士	無料
3	7	14:00 (予定)	16:00 (予定)	市民公開講座	(仮)災害(防災)と社会福祉士 の役割につき学ぶ (講師:石橋正道氏・ 綾瀬市社会福祉協議会)	茅ヶ崎市 コミュニティセンター B会議室	湘南東	今回の テーマに 関心のある方	無料
4	19	13:30 (予定)	16:00 (予定)	横浜支部全体会	第1部:支部活動報告 第2部:未定	横浜市西区福祉 保健活動拠点	横浜支部	会員および 関心のある方	無料

事務局からのお知らせ

年会費についてご納入ありがとうございました。2020年度の年会費1万4千円については、2020年4月1日現在の会員の方について、4月13日付けで引き落としさせていただきます。

会費は年度ごとのご納入となっておりますので、退会や転出のご連絡については、必ず3月31日17時までに事務局へご連絡ください。引落手数料は消費税増額のため118円から121円に変更となりました。会費引落口座の残高について予めご確認くださいませようお願い申し上げます。

BEST SHOT を
お待ちしております!

広報委員会よりお知らせ



表紙写真大募集!!

あなたの写真で「かながわの風」の表紙を飾りませんか?

広報委員会では「かながわの風」の表紙を飾る写真を募集しています。

テーマ: 神奈川の風景

カメラ: デジタルカメラで、一眼レフやコンパクトカメラ、スマートフォンなど機種は問いません。

画素数: 3024×4032ピクセル以上

送信先: koho@kacsw.or.jp

《ご注意》

- 写真のファイルサイズが大きい場合は、クラウドストレージなどをご利用ください。送信方法が不明な場合は、左記メールアドレスまでご相談ください。
- 人物を被写体にしないでください。人物が個人を特定できるサイズで写っている場合は、同意を得た場合でも採用しない場合があります。
- 採用する場合は、掲載号発行前にメールにてご連絡を差し上げます。不採用の場合はご連絡を差し上げませんので、ご容赦ください。

編集委員も同時募集中!

本会会員の皆様の中で、広報制作に興味・関心がお有りの方は、事務局までお知らせください。是非、新しい「風」づくりに参加をお願い致します。なお、広報委員会は原則として奇数月の最終週の火曜日、19:00~21:00に開催しております。

(広報委員長:日向 明)

編集後記

遅ればせながら、あけましておめでとうございます。本年もお付き合いのほど、よろしくお願致します。2019年最後の日の入りを見届け、来る2020年の初仕事である元日の当直までの僅かな時間に束の間の年末年始を過ごし今日に至るが、ふと見ていたテレビで、大切にしていた言葉と再会を果たした。

某建設会社のCMであるが、企業コンセプトCM「建設が、好きだ。」という新米女子社員の成長を描いたシリーズである。その中で「大変な時は自分が大きく変わる時」と先輩社員が女子社員に向けてシーンがある。作家の小林正観(こばやしせいかん)の言葉で

ある。小生の記憶が正しければ、正観さんの「脱力のすめ」という本の中に記されていたと思うが正確には「大変な時は自分が大きく変わる時変わる時」であったと記憶している。生きて行くには、とかく「大変な事」が多き世にあり、時に道端に体を休めなければならない時もあるが、正観さんの本は「何となく疲れた」とか、「虚しい」とか己が気持ちが定まらない時に読みたくなる魔力を持っている。「また大変な1年が始まったな」とお感じの方でご興味のある方は、正観さんの本の世界に浸ってみたいかがでしょうか。

様々な期待や不安を乗せて、走り出した2020年が皆様にとって輝く1年となりますようお祈り申し上げて、今年最初の号を締めくくりたいと思います。(広報委員長:日向 明)